

2022 年 年頭の挨拶



恩納村長
長浜 善巳

明けましておめでとうございます。

村民の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。また、日頃より村政の運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

ご承知の通り、昨年は新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、当たり前の日常生活が大きく制限された一年でありました。村民の皆様におかれましては、緊張感の中での生活が続き、幼少中学校などの休校、各施設の閉鎖、各種イベントの中止、不要不急の外出自粛など様々なお願いをいたしました。また、新型コロナウイルス感染症拡大により疲弊した消費を回復させるため、売上が減少する村内事業者を支援することと併せ、住民生活の支援を目的として、全村民を対象に一人当たり5,000円の商品券の支給を行うとともに、村民の皆様には、感染拡大防止にご協力を頂き心

より感謝申し上げます。

村といたしましても感染の再拡大にそなえ、1月下旬以降に3回目のワクチン接種が円滑に進められるよう医療提供体制の維持、強化に取り組みながら長引くコロナ禍で大きなダメージを受けている観光関連産業や農水産業などの経済社会活動の再開に向け、引き続き取り組んでまいりたいと思います。そんな中、昨年10月中旬頃には、

小笠原諸島の海底火山噴火で発生した軽石が沖縄本島などに大量漂着し、本村の漁業や観光産業に大きなダメージを与えている問題で、緊急の対応チームを設置し、軽石の除去など緊急の対応策を講じてきました。やっと新型コロナウイルス感染状況が少しずつ収まりを見せ、落ち着きを取り戻しつつあるなか、軽石の大量漂着、漂流は本村にとって甚大な自然災害であります。コロナと軽石によるダブルパンチで水産業や観光産業への影響が日を追うごとに深刻化しておりますが、ホテル従業員や漁業協同組合、ダイビングスタッフ、地域のボランティアの皆さんが除去作業にご協力いただき心より感謝申し上げます。引き続き、軽石の回収・処理への支援、漁業被害への補償など、しっかりと対応しながら国と県、そして恩納村が連携強化に向けた様々な活動に取り

組んでまいります。

さて、昨年を振り返ってみますと、3月に名嘉真区民の強い要望によって名嘉真川橋梁「ひなん橋」が完成いたしました。これからは高台にある多目的施設（公民館）へつながる橋としての役割と津波や洪水等の災害時には、住民の生命の安全を確保のため河川を迂回することなくスムーズに移動できるようになりました。

また、11月には37年近くにわたり進められてきた安富祖ダムが無事、竣工を迎え安富祖区民の皆様には安富祖川流域の治水と安定供給に大きな役割を果たすとともに、区民の暮らしと経済を支え、今後の利活用と発展に大いに期待をしております。

そして昨年、11月から12月下旬にかけて、村内各字との行政懇談会を開催し、地域の課題や日常生活における身近な問題について、活発な議論を行いました。村民の意見を広く行政運営に反映させ地域と行政、そして村民の皆さんと知恵を出し合い、コロナに負けない元気な村づくりに取り組んでいきたいと思っております。

結びに、今年一年が村民の皆さまにとりまして素晴らしい年であることを祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。